

今週（2月26日から3月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、主だった財政要因等として26日の3M発行超過及び20Y発行、3月に入ってから財政融資資金の回収、税・保険料揚げがあったが、足元金利は地銀・証券・信託中心に▲0.07～▲0.03%のビッドが入ってきており、深いマイナスレートで調達できる先は総じてギブンを待つ展開となった。出会いのレンジとしては▲0.07～+0.001%とワイドであるが、▲0.065～▲0.05%と▲0.035～0.03%の2つがボリュームゾーンとなり、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.053～▲0.048%となった。ターム物に関しては一部に期越え物の調達ニーズがあるものの、運用可能な先が限られているため、出会いは限定的となっている。

固定金利方式の共通担保オペは1日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額2,320億円(期落ち額2,331億円)の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、▲0.165～▲0.095%のレンジでの取引となった。週を通して投資家の資金調達ニーズは弱く、低めのレート水準で推移した。

月末初物の取引となる週初26日のGC S/Nは、▲0.130～▲0.120%程度のお合い。27日のS/Nは▲0.110～▲0.105%程度。28日のS/Nは▲0.165～▲0.145%程度までレートが低下したが、3月1日のT/Nは▲0.130～▲0.100%までレートを戻した。同日のS/Nは▲0.130～▲0.105%程度。3月2日のS/Nは▲0.150～▲0.135%程度で推移した。

SCIは、個別銘柄では2y383～385、5y130～134、10y333～349、20y162～163、30y57、40y10等に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き期末越えの担保需要や海外勢の買いが意識され、全般的に強含みで推移した。

1日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.21%から▲0.23%に買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.2112%、按分落札利回▲0.1944%と引き続き強い結果となった。セカンダリーでは▲0.206～▲0.20%のお合いと堅調に推移した。

2日に実施された短国買入オペは、2,500億円がオファーされた。平均落札利回較差▲0.003%、按分落札利回較差▲0.007%としっかりした結果となった。

28日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する」と発表され、残高見込みのレンジが無くなった。

●CP市場

今週のCP市場は月末にかかる発行があり、鉄鋼・卸売・不動産・機械業態等から大型案件が実施された。活況なマーケットとなったものの、週間発行総額1兆4,500億円程度に対して、週間償還総額は1兆7,000億円程度と償還超となった。2月末のCP市場残高は17兆1,344億円となり、前年同月比で1兆円以上増加する等、引き続き高い水準ではあるものの、年末資金需要から増発されていた金融機関のCPが大量償還されたことを主因に、前月比では1兆円強の減少となった。事業法人の発行増が一段落したこと、23日のCP等買入オペが按分レート▲0.007%で決着し、3月もオペレート低下が期待されること等から、発行レートは年度末越えの銘柄を中心に、先月より僅かに深いマイナスレートでの出会いが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/26 (月)	22,153.63	0.045	106.50	△ 0.048	△ 0.118	3,645,000
2/27 (火)	22,389.86	0.040	106.89	△ 0.048	△ 0.116	3,659,800
2/28 (水)	22,068.24	0.045	107.32	△ 0.053	△ 0.143	3,668,000
3/1 (木)	21,724.47	0.050	106.68	△ 0.052	△ 0.109	3,655,100
3/2 (金)	21,181.64	0.065	106.25	△ 0.050	△ 0.104	3,613,300

来週（3月5日から3月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/5 (月)	3月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				2月のISM 非製造業景況指数
3/6 (火)		30Y 8,000億円 3/20発行			1月の米製造業新規受注・出荷・在庫
3/7 (水)	2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 23,000億円 3/12発行			米ページブック 1月の米貿易収支 1月の米消費者信用残高 10-12月期のユーロ圏GDP確報値
3/8 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB3M 44,000億円 3/12発行	流動性供給 3,000億円 3/12発行	エネルギー 対策借入 3,500億円 3/20借入	ECB定例理事会(金融政策発表)
3/9 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 1月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 2月のマネーストック(日銀 8:50) 1月の毎月労働統計調査速報(厚生労働省 9:00)				1月の米卸売売上高 2月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/5 (月)	600	▲ 8,100	▲ 7,500	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,300 ▲ 300 1,600	2,300	1,300	▲ 6,200	TB3M発行▲44000償還39900
3/6 (火)	1,000	1,000	2,000	国債買入 短国買入		10,600 2,500	13,100	15,100	交付税借入▲10500期日10500
3/7 (水)	1,000	7,000	8,000				0	8,000	
3/8 (木)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	交付税借入▲10500期日10500
3/9 (金)	0	3,000	3,000	CP買入		5,000	5,000	8,000	
週間合計	2,600	900	3,500	—	▲ 1,000	20,400	19,400	22,900	

3/5は日銀予想、3/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、5日にTB3M発行超過があるものの、週を通して大幅な過不足となる日は無い見通し。無担保コールO/Nは積みの後半期間に入ったことで調達ニーズの増加が見込まれ、緩やかに上昇することが見込まれる。

レポ市場は、引続き投資家の動向次第ではあるが、▲0.130～▲0.090%程度の低めのレート推移を予想する。

短国市場は、7日に6M物、8日に3M物の入札が実施予定となっており、担保需要や海外勢の動向次第ではレートの上昇も考えられる。

CP市場は、6日にCP等買入オペが5,000億円で実施予定となっている。2月28日に発表された3月のオペのオフター予定額が当初予定から500億円増額の5,000億円となり、2月の2,500億円から大幅に増額されることを受け、オペのレート低下期待が高まると見られ、期越物にはさらなる金利低下も予想されている。

主要なイベントとしては、7日にページブック、8日に10-12月期のGDP2次速報、9日に2月の米雇用統計等が挙げられる。また、8日にECB定例理事会、8～9日に金融政策決定会合が予定されている。2018年3月～5月の積み期間に適用される、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が9日の17時に公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまよようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。